



日本語と日本人

ピーター・フランク

僕は今までに20カ国語近くをかじったことがあるけれど、正直なところ一番難しいと感じたのが日本語だった。なんでそれでも日本語を学び続けたかという、日本人がとても優しく親切だからだ。世界中の様々な国を訪れてきたが、日本と日本人が大変気に入って日本で暮らし始めてもう10年になる。外国人が日本語を少しでも話すと、日本人は必ず「日本語が上手ですね」と誉めてくれる。それは日本人が日本語を学ぶことの難しさを理解しているからだろう。多くの外国語はどれもたいてい難しいものだが、その国の人が難しさを意識していないことが多い。だから上手に話しても当然という顔をされる。その理由は表記にある。外国語は文字が種類なので話していることを基本的に書けるが、日本語の場合はひらがな、カタカナに加えて難しい漢字がたくさんある。最も基本的な1200字の漢字を小学校の6年間で習うのだが、頭の柔らかい子供が6年かけて学ぶことを外国人が身に付けるのは本当に大変である。そこで僕は自分を勇気づけるために、最初に日本人でもなかなか書けないような漢字をいくつか覚えて満足感を得た。

また日本語には敬語がある点がとても難しい。相手への敬意を表すために尊敬語・謙譲語・丁寧語があり、例えば食べるに関しては相手に「召し上がってください」と言われたら、「いただきます」と答えなければならない。けれどもこれらをすべて最初から正確に覚えるのは無理なので、間違いを恐れずにどんどん話したほうがよい。逆に間違ふことによって愛嬌が出て、相手に親しみをもってもらえるから。

他にも日本人と知り合ったときに親しくなるコツを紹介しよう。日本人はお互いをファーストネームで呼ばないことが多いが、できるだけ最初から日本人をファーストネームで呼ぶといい。これは外国人の特権であり、日本人は嫌がらずにむしろ喜ぶことのほうが多く、簡単に友達になれる。また日本人は親しい間柄でも、会ったときに握手をしたり抱き合ったりキスしたりすることがないが、それを知った上で気にせずそうするとよい。外国人だから許してもらえるし、楽しむ日本人も意外と多い。

日本の文化、日本人を理解して、外国にいてもとにかく楽しく日本語を学んでほしい。

(数学者、大道芸人)